公共事業部門

防災・レジリエンス政策本部

MRI 三菱総合研究所



公共事業部門　防災・レジリエンス政策本部

災害大国かつ資源小国である日本の課題を解決し、より豊かな社会を実現する

Mission

日本は、地理的特性や気候条件から、地震や台風など自然災害の頻発地域であり、近年の気候変動によってそのリスクはさらに高まっています。また、高度成長期に整備されたインフラが老朽化する中、少子高齢化による地域社会の脆弱化も、防災対応や災害後の復旧・復興に影響を及ぼしています。加えて、地政学リスクの変化は社会全体の基盤であるエネルギー安定供給にも課題を突きつけています。こうした日本が抱える複合的課題に対し、私たちは以下の取り組みを柱に、レジリエンスの向上を通じた災害に強い社会の構築、そしてその先にあるより豊かな社会の実現を目指しています。

①リスク評価を起点とした防災・減災・強靱化の推進：自然災害に対する事前防災施策を徹底し、災害対応力を向上させることで地域社会の安全性確保を推進します。また、こうした取り組みが災害対策コスト適正化、災害時の損害額低減、レジリエンス確保の早期化につながり、さらには平時における生活の質の向上にも寄与することを目指します。

②原子力災害からの復興と発電システムの強靱化：原子力災害からの復興を支援しつつ、電力の安定供給と安全性の向上・エネルギーインフラの強化を推進します。また、原子力・放射線技術の活用やフュージョンエネルギー利用の実現を通じて、次世代のより豊かな社会の実現に貢献します。

Service

防災・レジリエンス政策本部の代表的な提供サービスは以下のとおりです。

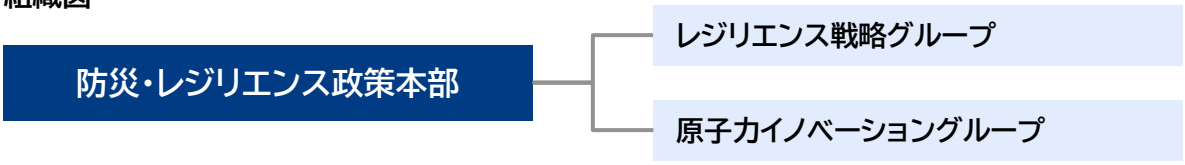
防災・レジリエンス、リスクマネジメント関連サービス

（1）防災・レジリエンス政策に関するリサーチ・コンサルティング
（2）リスクマネジメント、リスク評価に関するリサーチ・コンサルティング

原子力関連サービス

（1）革新炉等の新インフラに関するリサーチ・コンサルティング
（2）原子力安全、技術・人材・産業に関するリサーチ・コンサルティング
（3）福島復興・廃炉に関するリサーチ・コンサルティング

組織図



Group

レジリエンス戦略グループ

わが国は、大規模地震の発生を控えつつ、気候変動も含め自然災害が毎年のように激甚化・頻発化している状況にあります。一方、これを迎える社会は、少子高齢の中社会基盤も老朽化し、発災時はサプライチェーンで波及影響が広範囲となる等、脆弱性は増大しています。

当グループは、甚大な影響をもたらす自然災害のリスクを科学的に評価し、課題を定性・定量的に多様な側面から把握できることを強みとしています。これにより、事前に合理的な対策・対応を正しく考え、社会に実装し、災害影響の抑制や発災時のスムーズな対処につなげることで社会課題の解決を目指します。

命だけではなく、地域や産業を守り、個人のQoLも含めた社会全体のレジリエンスが実現できるよう、お客様の課題解決に取り組んでいます。

代表的プロジェクト

- **被害想定・災害リスク評価・気候変動シミュレーション・地域対応力評価**
  - 南海トラフ巨大地震・首都直下地震等大規模災害被害想定
  - 気候変動による台風激甚化シミュレーション、これに伴う被害の定量評価
  - 自然災害に対する地域の脆弱性・対応力評価、定量的弱部分析
- **防災・レジリエンス政策、防災産業化に係る政策**
  - 我が国の防災対策に係る中長期的な構想や戦略の策定
  - 被害軽減・災害対処能力向上に資する対策検討、計画・アクションプランの作成
  - 防災産業の活性化・国際展開政策の策定、事前防災対策の普及啓発支援
  - 防災DXの実現に向けた業務課題調査、データ連携・技術活用検討支援
- **危機管理コンサルティング**
  - 危機管理計画策定、緊急時対応組織の設計、組織体制機能強化（首都機能代替・バックアップ）等
  - 訓練、協定等を含む災害対処・オペレーション能力向上支援
- **先端技術の社会実装**
  - 研究開発プロジェクト支援、事業評価
  - 先端技術の災害時活用方策検討支援
  - 民間企業の防災ビジネス・技術開発検討支援

提言・コラム等

【MRIエコノミックレビュー】地域全体で進める事前防災（2026.8）

- **被害想定を読み解き、事前防災に活かす**
- **助かった命を日常までつなぐプロセス**
- **観光分野に見る、被害想定を対話と行動につなげるプロセス**

【コラム】防災新時代への提言（シリーズコラム/2026最新）

https://www.mri.co.jp/knowledge/column/bousai/index.html

- **リスク評価に基づく維持管理・強靭化のあるべき姿**
- **平時医療データで災害直後の初動判断を支える**
- **激甚化する災害への備えをどう進めるか**

Group

原子力イノベーショングループ

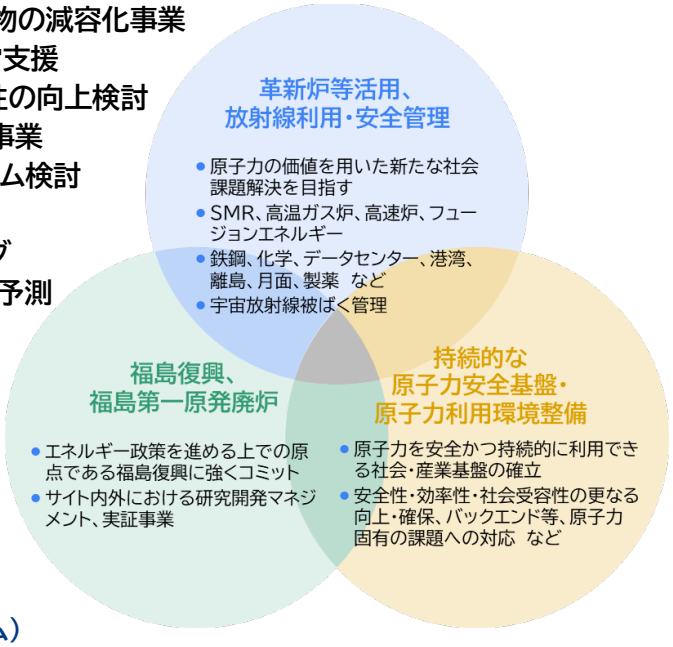
電力・エネルギー需要増大が予測される中、我が国におけるエネルギー安全保障の確保とカーボンニュートラルの達成を両立するためには、原子力利用は必要不可欠な選択肢です。

一方、解決すべき課題は多くあり、福島第一原子力発電所の廃炉、周辺地域における除去土壌・廃棄物の減容・最終処分、福島の復興、既設原子力関連施設の安全性向上、人材・技術・サプライチェーンの維持等、多岐に亘ります。加えて、更なる安全性向上を目指した革新炉の開発・社会実装も必要となります。革新炉は、従来の家庭や工場への電力供給に加え、AIが稼働するデータセンターへの電力供給、さらには熱利用や水素製造など、新たな価値創出にもつながる可能性を秘めています。

当グループでは、原子力・放射線関連分野の豊富な業務実績・幅広い外部ネットワーク・AI/DXに係る知見を活用し、原子力が抱える課題の解決に加え、原子力を積極的に活用することで社会課題の解決を目指します。

代表的プロジェクト

① 福島第一原発の廃炉・汚染水・処理水対策に係る研究開発マネジメント
② 福島第一原発事故由来の放射性物質を含む廃棄物の減容化事業
③ 原子力に係る戦略策定・人材育成事業の設計運営支援
④ 原子力産業におけるAI品質検討／安全性・効率性の向上検討
⑤ 立地地域における産業振興、企業支援、街づくり事業
⑥ 革新炉実装に向けた国内外規制調査・導入スキーム検討
⑦ フュージョンエネルギー社会実装に向けた調査
⑧ エネルギー利用企業に係る調査・コンサルティング
⑨ 経営判断に資するエネルギー／原子力動向分析・予測
⑩ 福島環境再生・廃棄物対策事業の進捗・情報管理
⑪ リスコミ・合意形成に係る調査・コンサルティング



提言・コラム等

【コラム】カーボンニュートラル時代の原子力（連載コラム）
https://www.mri.co.jp/knowledge/column/fukuichi/index.html
【セミナー】電力・熱の需要から考える原子力活用と企業GX
https://www.mri.co.jp/seminar/20260717.html

お問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所　防災・レジリエンス政策本部
〒100-8141　東京都千代田区永田町二丁目10番3号
E-mail：dru-inquiry@ml.mri.co.jp

表紙　模型製作：テラダモケイ、模型撮影：益永研司